

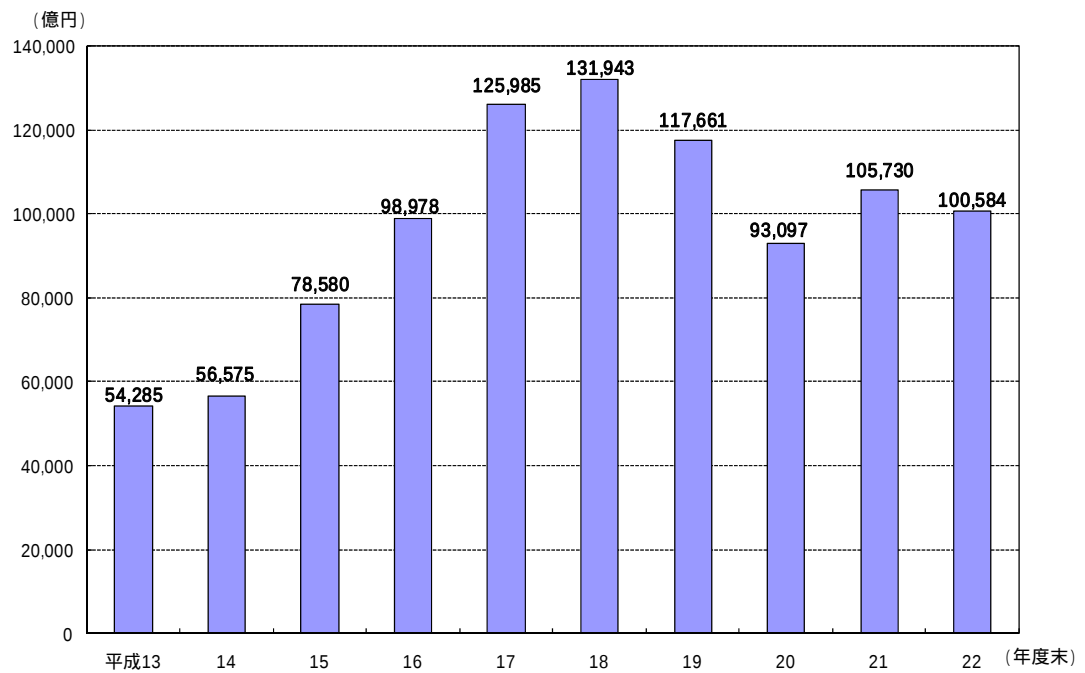
平成22年度(2010年度)
年金資産運用状況

1. 資産残高

資産残高(平成23年3月末)

10兆 584億円

資産残高の推移



2. 資産構成割合

資産構成割合(平成23年3月末)

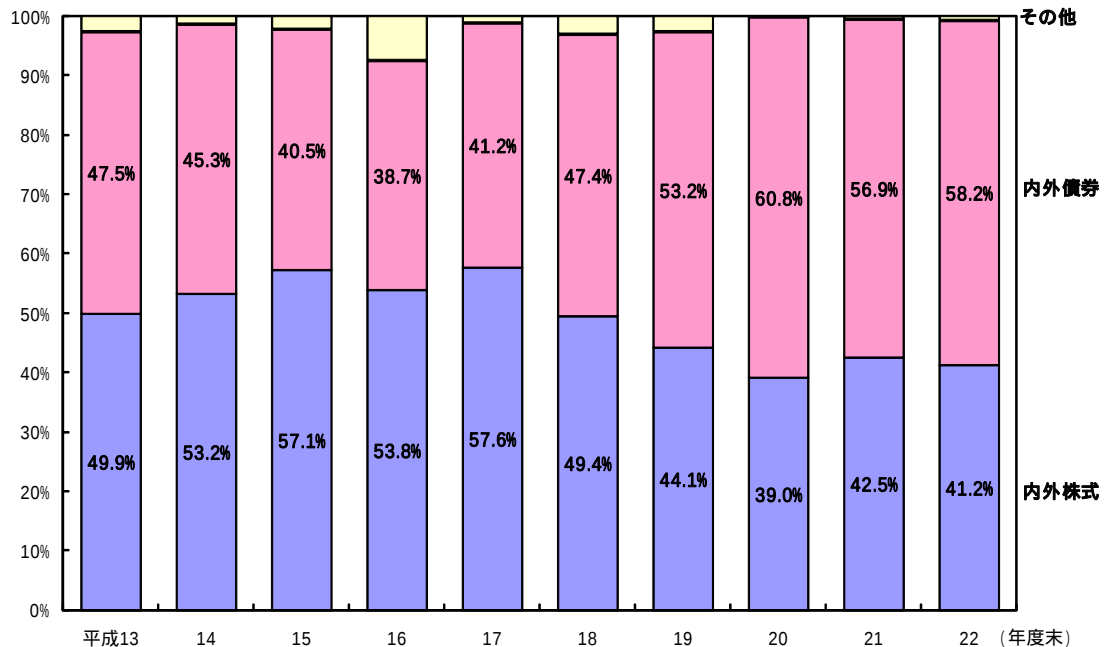
内外株式	41.2%
内外債券	58.2%
その他(不動産)	0.6%

政策アセットミックス基準値(平成23年3月末)

内外株式	40.0%
内外債券	60.0%

リスク管理の強化を図るために、平成22年8月「年金資産運用の基本方針」を改定し、政策アセットミックスを変更。

資産構成割合の推移



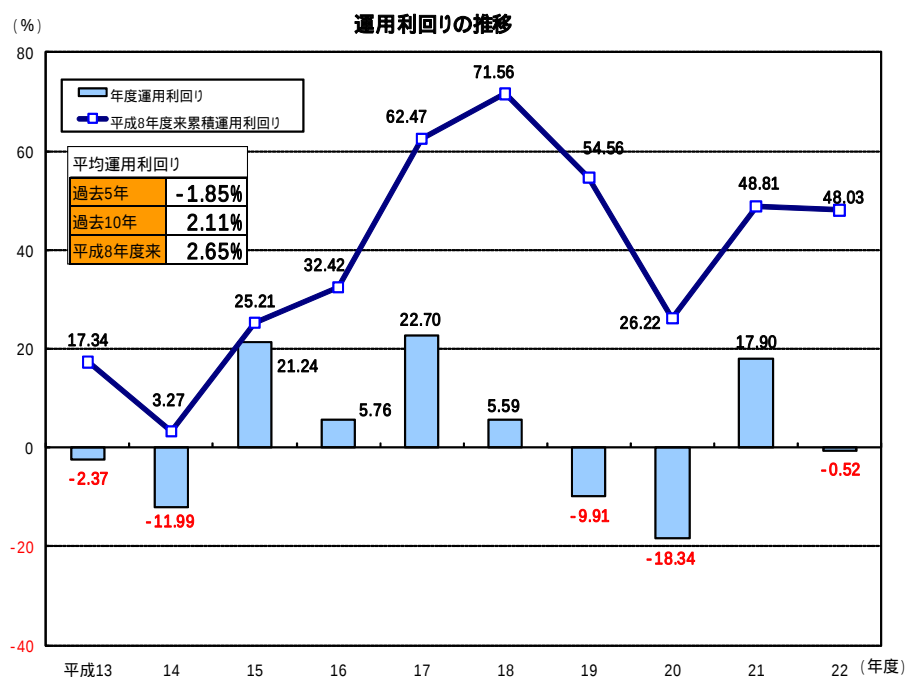
平成20年度以降は、マネジャーが一時的に保有する短期資金を、その他資産に含めずに各資産内に計上。

平成22年度からは、資産区分を内外株式と内外債券の2資産としている(過去分についても2資産で表示)。

3. 運用利回り

修正総合利回り

当年度	- 0.52%
過去5年平均	- 1.85%
過去10年平均	+ 2.11%
過去15年平均	+ 2.65% (平成8年度以降)



注) 平成8年度に資産配分規制が撤廃され運用が自由化された。

4. 資産別運用状況

時間加重収益率

全資産	- 0.36%
内外株式	- 1.07%
内外債券	+ 0.09%

政策アセットミックス基準値に対する超過収益率 + 0.24%

(1) 内外株式

内外株式のベンチマークは、「TOPIX(配当込み)」と「MSCI-KOKUSAI(円換算・配当再投資・Net)」を加重したカスタム・ベンチマーク。

パッシブ運用の割合は平均で45%。

国内株式のベンチマーク超過収益率: + 0.64%

- 今年度のアクティブ運用の超過リターンは+ 1.02%。
現行のマネジャー・ストラクチャー構築後に獲得した、過去2年間のアクティブ運用の超過リターンは+ 3.63%(年率)。
- アクティブ運用の中長期的なパフォーマンスは、3年ロッキングで+ 1.49%、5年ロッキングでも+ 0.77%の超過リターン(年率)。

外国株式のベンチマーク超過収益率: + 0.90%

- 平成20年度より行ってきた、アクティブマネジャーの抜本的な見直し作業の結果、今年度のアクティブ運用の超過リターンは+ 1.38%を獲得。
- 継続的に取り組んできた、エマージング市場へのエクスポージャーを含むグローバル投資指向が奏功した結果、外国株式運用全体の中長期的なパフォーマンスは、3年ロッキングで+ 0.52%、5年ロッキングでも+ 0.42%の超過リターン(年率)を安定的に確保。

(2) 内外債券

内外債券のベンチマークは、「バークレイズ・キャピタル日本総合インデック

ス」と「シティグルー・プ世界国債インデックス(日本を除く、円換算)」を加重したカスタム・ベンチマーク。

上記カスタム・ベンチマーク超過収益率: + 0.47%

- マネジャー・為替ヘッジ効果 + 0.61%
- 内外債券アロケーション効果 - 0.49%

外債のオーバー・ウェイトによるアンダー・パフォーマンス分は、内外マネジャー・(インハウス含む)の超過収益、およびインハウスでの通貨配分の調整等によりカバー。

- ベンチマーク選択効果 + 0.16%

グローバルクレジットおよびエマージング市場等のベンチマーク選択が奏功。

- 取引その他効果 + 0.20%

平成22年度より開始した内外債券ポートフォリオ全体の金利リスク、為替リスク、クレジットリスクなどのトータルなリスク管理(トータルリスクコントロール)に伴う委託先のベンチマーク変更およびリバランス、ならびにインハウスを含めたポートフォリオ構築のタイミング等が貢献。

キャッシュマネジメントおよび為替リスクコントロール等の効率化のため外債インハウス運用を拡大、内外債券運用の6割をインハウス化。

(3)ヘッジファンド

平成22年度末の投資残高は、前年度末と同額の約3,600億円。

前年度に引き続き平成22年度も、以下の点に留意した運用を継続。

- 運用戦略について、従来のファンド・オブ・ヘッジファンズとマルチ戦略シングルファンドの組み合わせから、外国株式α戦略(株式ロングショート)と外国債券α戦略(イベントドリブン中心)の二つの戦略へ、再編・集約。
- 運用効率改善のため、投資スキームの修正を行い、運用手数料などのコストを削減。
- リスク管理強化の観点から、運用内容に関する透明性を改善。

平成22年度のリターンは、年度通算すると、好調を維持した海外株式市

場・海外クレジットスプレッドの縮小を受けて、株式α戦略及び債券α戦略
トータルで、ベンチマーク超過収益率+2.66%を確保。

(4) プライベート・エクイティ

平成22年度末のコミットメント累計約2,290億円、投資残高約860億円。
投資開始以来、累計の分配金は約261億円。

資産配分上の取り扱いは株式。

平成22年度は中期投資計画に基づき、海外シングルファンドを中心に、約
490億円の新規コミットメントを実施。

海外については主に米国ゲートキープの調査、推奨を受けてポートフォ
リオの構築を継続、エマージング地域を対象とした戦略や、中小型企业を
対象としたバイアウト、セクター特化型バイアウトなど、地域・戦略等の分散
に留意しつつ向こう数年間の投資をカバーする優良ファンドを選定。

(5) 不動産

平成22年度末投資残高はオフィスビルを中心に630億円。

5. 参考データ

(1) 委託運用・自家運用(インハウス運用)残高の推移

(百万円)

	18年度末	19年度末	20年度末	21年度末	22年度末
合 計	13,194,307	11,766,057	9,309,750	10,572,954	10,058,374
委託運用	9,222,178	8,460,032	6,441,966	6,894,527	6,036,787
自家運用	3,972,129	3,306,026	2,867,783	3,678,427	4,021,587

(2) 自家運用(インハウス運用)の状況

国内株式ファンド

(%, 百万円)

	時間加重収益率	ベンチマーク	実績トラッキングエラー	年度末残高
ファンド	▲9.05	▲9.20	0.04	380,255
ファンド	▲8.04	▲9.23	2.22	177,737

注)リバランスやマネジャーの入替えに伴うトランジションマネジメントの影響等により、ファンド の実績トラッキングエラーが高くなっている。

国内債券ファンド

(%, 百万円)

	時間加重収益率	ベンチマーク	超過収益率	年度末残高
ファンド	1.97	1.85	0.12	1,407,627
ファンド	2.11	1.91	0.20	1,429,973

注1)ファンド のベンチマークは、パークレイズ・キャピタル日本総合インデックス。

注2)ファンド のベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス日本。

外国債券ファンド

(%, 百万円)

	時間加重収益率	ベンチマーク	超過収益率	年度末残高
ファンド	▲7.23	▲7.54	0.31	283,925
ファンド	▲7.09	▲7.54	0.46	282,029
ファンド	1.07	▲3.07	4.14	29,618

注1)ファンド 、 のベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(円換算、日本除く)。

注2)ファンド のベンチマークは、パークレイズ・キャピタル新興市場政府ユニバーサルGDP加重インデックス。

(3) 委託先運用機関(平成22年度末)

国内株式	外国株式
アライアンス・バーンスタイン	アムンディ・ジャパン
インベスコ投信投資顧問	アライアンス・バーンスタイン
MU投資顧問	ウエリントン・インターナショナル・マネ - ジメント
キャピタル・インターナショナル	キャピタル・インターナショナル
JPMorgan・アセット・マネジメント	JPMorgan・アセット・マネジメント
大和住銀投信投資顧問	シュローダー証券投信投資顧問
東京海上アセットマネジメント投信	中央三井アセット信託銀行
野村アセットマネジメント	ナティクス・アセット・マネジメント
フィデリティ投信	野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー
みずほ信託銀行	ブラックロック・ジャパン
三菱UFJ信託銀行	みずほ信託銀行
ラザード・ジャパン・アセット・マネージメント	三菱UFJ信託銀行
ラッセル・インベストメント	メッツラー・アセット・マネジメント
—	ラザード・ジャパン・アセット・マネージメント
—	ラッセル・インベストメント
国内債券	外国債券
大和住銀投信投資顧問	朝日ライフアセットマネジメント
中央三井アセット信託銀行	アライアンス・バーンスタイン
T&Dアセットマネジメント	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
東京海上アセットマネジメント投信	ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ
ビムコジャパン	東京海上アセットマネジメント投信
ブラックロック・ジャパン	野村アセットマネジメント
—	ビムコジャパン
—	ブラックロック・ジャパン
—	レグ・メイソン・アセット・マネジメント
その他	
エー・アイ・キャピタル	ブラックロック・ジャパン
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	みずほ信託銀行
ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ	三井不動産投資顧問
DBJ 野村インベストメント	三菱地所投資顧問
東急不動産キャピタル・マネジメント	三菱UFJ信託銀行
東京海上アセットマネジメント投信	森ビル不動産投資顧問
農中信託銀行	りそな銀行
野村不動産投資顧問	—

(4) 修正総合利回りの推移

(%)

年度	修正総合利回り			
	単年度	5年平均	10年平均	平成8年度 以降平均
平成13	▲2.37	2.39	-	2.70
14	▲11.99	▲1.42	-	0.46
15	21.24	1.86	-	2.85
16	5.76	0.82	-	3.17
17	22.70	6.21	4.97	4.97
18	5.59	7.89	5.11	5.03
19	▲9.91	8.40	3.38	3.70
20	▲18.34	0.16	1.00	1.81
21	17.90	2.36	1.59	2.88
22	▲0.52	▲1.85	2.11	2.65

注1)「5年平均」「10年平均」利回りは、それぞれ当該年度から過去5年間、10年間の幾何平均利回り。

注2)「平成8年度以降平均」利回りは、資産配分規制が撤廃された平成8年度以降の幾何平均利回り。